

平成11年1月25日

国語審議会
会長 清水 司 殿

社団法人 日本雑誌協会
編集委員長 安藤 満

第21期国語審議会「新しい時代に応じた国語施策について
(審議経過報告)」のうち「第2 表外字字体表試案」に対しま
して、以下の通り当協会の意見・感想を申し上げます。

記

表外漢字の字体問題について検討を加えるに際しては、①現実にはいかなる字
体が定着し通用しているか使用の実態を踏まえながら、②歴史的な日本語表記
の連続性に配慮することが肝要だと思われま。

この観点から、常用および人名漢字は現行のものを踏襲し、それ以外の表外
漢字については明治以来の伝統的な印刷字体(いわゆる康熙字典体)とする方
向が打ち出されたことに、歓迎、賛同の意を表明します。

以下、申し添えるのは賛同という立場からの要望とご理解下さい。

●「Ⅱ 本表」の「簡易慣用字体」の欄は、きわめてデリケートな問題を含んで
いるといわざるを得ません。「比較的慣用度の高いもの」という基準が曖昧で
あること、‘懼’と‘惧’、‘臘’と‘臑’のように現在の日本の用例ではむ
しろ別字と意識されているとも考えられるものが示されていることなどです。

次期国語審議会においては、この点慎重なご審議を尽くされるようお願いし
ます。

●「表外漢字における字体の違いとデザインの違い」で「4 表外漢字だけに適用されるデザイン差の例」が掲げられていますが、デザインについて表内表外と分ける結果となり混乱を招くおそれはないのか、という点も気がかりなところではあります。

●そもそも今回の問題は、ワープロ等の急速な普及によってもたらされたとは言え、JISとの連携が充分に行われなかったことに起因しています。今後、国語審議会の審議結果が適切に反映されるよう、リーダーシップを発揮されることを期待します。

以 上